



# 届け市民の思い「この街が好き」

## 市テーマソングPV 22日くずはモールでお披露目

市は、7月に公開した市テーマソング「この街が好き」のプロモーションビデオを12月22日(日)、くずはモール南館1階「SANZEN-HIROBA」でお披露目する。

映像は6分22秒。枚方で暮らす母と息子の日常を、淀川河川敷の夕景や学校、街並みといった枚方の風景と重ね合わせながら美しく映し出している。親子を演じた市民2人をはじめ出演は総勢250人以上にのぼり、地元企業も多数協力している。

22日のお披露目イベントには、作詞作曲した地元ゆかりのミュージシャンTANEBI(タネビ)や枚方出身で市PR大使も務めるタレント川崎麻世さんも登場。公募の女性ボーカリストとともにミニライブも行う。午前10時15分~11時。入場無料。

★テーマソングを制作したTANEBIは枚方出身の上田和寛さん(41歳)と昨年の日本レコード大賞作曲賞を受賞した杉山勝彦さん(37歳)の2人組。「故郷のために歌を作りたい」という上田さんの提案を市が快諾。ボーカルは市民から公募し50人の中から6月に3人をオーディションで選んだ。曲は6月のレコーディング後7月に市ホームページ上で公開。川崎麻世さん参加のダンスリミックス版も制作した。

★市はテーマソングを地元で長く愛される曲にするため、TANEBIと協力しながらPRに努めている。TANEBIのライブや枚方まつり、オクトーバーフェスト、T-SITE前といったステージでの披露はもちろん、小・中学校や合唱団体、企業への紹介などさまざまな手法を活用している。完成したCDやプロモーションビデオはTANEBIによるクラウドファンディングで制作した。



市PR大使で切り絵作家のたけうちちひろさんがデザインしたCDジャケット▲

★10月には日本経済新聞社主催の「全国社歌コンテスト」にも職員自ら動画を作成して応募した。地元の中学校を舞台に市民らが出演。結果発表は12月4日。最優秀賞にはJOYSOUNDからカラオケ配信できる権利が与えられることから、応募動画とは別に市公式SNS上で市民や職員が出演し投票を呼び掛ける応援動画を11月13日から毎日アップしている。これまでに看護師編、中学生編、居酒屋編など20本にのぼる。



▲社歌コンテストに応募した動画の一場面

※裏面に続く

- ★22日に公開するプロモーションビデオは上田さんがシナリオを書いた。自ら書いた歌詞のイメージに枚方で暮らす親子の日常を重ね合わせた。母親は息子の成長を見守り、息子は大人の背中を見ながら育っていくというストーリーで、散歩したりボール遊びをしたりする2人の姿が、夕日に染まる淀川河川敷とともに印象的に映し出される。市内で有名な氷屋でかき氷を食べるシーンもあり、京阪電車や商店で働く人、保育所の子どもたちに加え、市PR大使で枚方出身のタレントの森脇健児さんやパナソニックパンサーズの皆さんも登場する。
- ★撮影はプロの映像カメラマン2人が担った。有名ミュージシャンのライブ映像も手掛ける齋藤慎治（さいとうしんじ）さん（36歳）は共同監督と編集も兼ね、もう一人の増田正吾（ますだしょうご）さん（36歳）は枚方市出身でテレビ局での経験を経て現在はフリーとして活躍している。齋藤さんはTANEBIの映像作品を制作しており、今回もTANEBIからの依頼で知人の増田さんとともに参加することに。齋藤さんは「優しい映像」になることを心掛けたという。
- ★主役の親子を演じたのは市内在住の辻井智子（つじいともこ）さん（26歳）と、さだ西小学校5年生の田中実頼（たなかみらい）さん（10歳）。市が出演者を公募して8月にTANEBIが応募写真から選考した。2人の登場シーンの撮影日は9月1日・2日・7日。2人はともに演技の経験はなかったが、撮影に立ち会った上田さんや齋藤さんの指示を受けながら、3日間の撮影をこなした。辻井さんは「すごく緊張したけどとてもいい経験になりました。どう映っているのか不安もありますが、とても楽しみです」と話していた。
- ★22日のお披露目イベントは、くずはモール南館ヒカリノモール1階SANZEN-HIROBAで午前10時15分から11時まで。TANEBIのほか、枚方出身で市PR大使も務めるタレント川崎麻世さんも登場。公募の女性ボーカリストとともにミニライブも行う。入場無料。

<お問い合わせ>

総合政策部 ひらかた魅力推進課 ☎ : 072-841-1229 FAX : 072-841-3039